

Always WITH you!

どんなときでも、あなたと共に



SHIRASE体験乗船 600名を超える株主サポーター、ご家族・ご友人にSHIRASEを体感していただきました。

第24期 定時株主総会ダイジェスト

※本誌は2010年8月15日に開催された「第24期定時株主総会」のダイジェスト版となります。
総会の全容については、当社ホームページをご覧ください。

<http://weathernews.com/ja/nc/ir/supporter/soukai.html>

株主サポーターの皆様へ



ごあいさつ

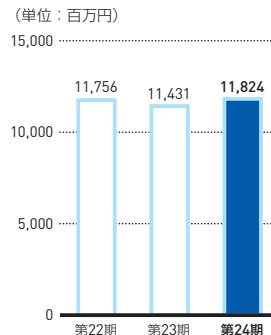
今年の夏は人命に関わるほどの猛暑が続いています。また西日本を中心に、過去にないほどの大雨が深刻な被害をもたらしました。加えて国内のみならず、世界においても例年にないほどの異常気象で多くの人命が失われています。このような状況の中、従来型の社会インフラの技術では、解決できない問題が多くなってきました。私たちウェザーニューズは、常識を超えた「無常識」な発想を持ち、新しいテクノロジーによって気象インフラを整備していくことで、その使命を果たしていきたいと考えています。

今年の5月、「気象を通じて社会に貢献したい、世界68億人の情報発信台になりたい」という壮大な夢を描き、気象をビジネスとして具現化してきた当社の創業者・石橋博良が他界しました。私たちは、この夢を引き継ぎ、株主サポーターの皆様のみならず、企業や個人サポーターの皆様と共に、夢を実現させていきたいと、想いを新たにしています。

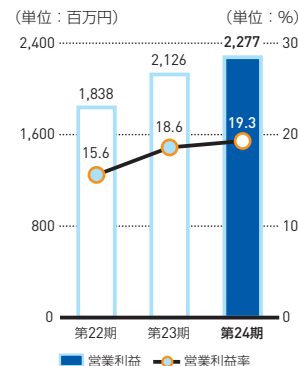
過去最高の売上高・利益を達成しました

第24期(2009年6月1日～2010年5月31日)は、3カ年の中期ビジョンの2年目として革新的なサービスを実現するインフラに積極的に投資しながら、交通気象、モバイル・インターネットの重点事業が10%成長しました。その結果、売上高は11,824百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益2,277百万円(同7.1%増)、経常利益2,257百万円(同10.7%増)、純利益1,421百万円となり(同20.4%増)、過去最高の売上・利益を達成しました。

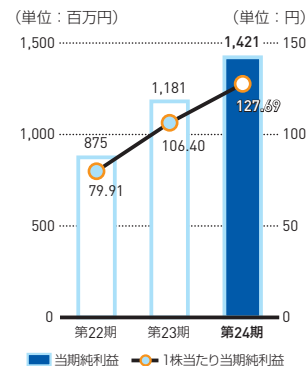
売上高の推移



営業利益／営業利益率



当期純利益／1株当たり当期純利益



次に重点事業の展開についてご説明します。交通気象の核となる航海気象は、厳しい経済環境にある海運業界の要請に応じて、当期より新しく提供を開始した減速運航をはじめ、お客様のビジネスの目的に合わせて運航を最適化するOSR(Optimum Ship Routeing) サービスが日本・アジアのコンテナ船を中心に拡大しました。また道路・鉄道・航空気象は、価値創造サービスを中心にサービス提供を拡大しました。道路気象では日本の高速道路の約8割に、鉄道では東日本、北海道、西日本にサービス提供を広げました。この結果、重点事業はマーケットシェアを広げることができました。しかし、海外売上における為替の影響があり、BtoB(企業向けサービス)市場全体の売上高は5,905百万円(前年同期比3.4%減)となりました。

BtoS(個人向けサービス)市場は、従来の一方的な情報発信ではなく、12万人にご利用いただいたグリラ雷雨メールや台風情報・雪情報など、個人サポーターが当社に情報を送り、コンテンツに主体的に参加する取り組みを広げました。また当社のコンテンツに触れていただく機会を拡大するために、スマートフォンや地上波デジタル放送など新たなメディアを活用することで幅広い個人サポーターの関心を集めました。こうしたコンテンツ展開により、モバイル・インターネット会員が増え、BtoS市場全体の売上高は5,919百万円(前年同期比11.3%増)となりました。

革新的な気象サービス・インフラづくりを継続します

第25期(2010年6月1日～2011年5月31日)は、中期ビジョン「官営サービスも含めて、世界中のサポーターから最初に選ばれる会社を目指して」の3年目の仕上げの年になります。全く新しいマーケットを創造してきた当社が、マーケットリーダーとして重点事業に集中すると共に、テクノロジーリーダーとしても、世界初の気象インフラを継続的に構築・展開することにより、価値あるサービスを創造します。

航海気象では、OSRサービスのコンテナ船から自動車船、ばら積み船、タンカー市場へ、また地域的にもアジア、欧州へ拡大します。さらに、将来はWNI衛星を利用して、海氷が減少している北極海の新たな航路の実現や、海賊船対策への応用の可能性についても、海運会社と共に取り組んでいきます。

交通気象では、従来のレーダーでは捕捉できなかった短時間・局地的な雨・雪などの気象リスクに対応するために、世界初の航空機レーダーをベースにした小型レーダーの設置を拡大します。第24期は、交通の要所30力所に配置しましたが、第25期はその勢いを加速させ、ほぼ日本全体をカバーする予定です。また強風のリスクにも対応するサービスへの取り組みを、高速道路や鉄道会社など企業サポーターの皆様と共に進めていきます。

5月2日には、南極観測で多大な貢献をした砕氷艦SHIRASEを、環境の新たなシンボルとしてオープンしました。世界中の氷や気象の実際の観測拠点として、また、環境の交信・共創の場として活用していきます。

革新的なインフラに継続的・積極的に集中することによって、第25期は売上高12,500百万円、営業利益2,700百万円、経常利益2,600百万円、純利益1,600百万円を計画しています。私たちは、創業時の「船乗りの命を守りたい」という志と、リスクを恐れず挑戦する起業家精神を絶やすことなく、株主サポーター、企業サポーター、個人サポーターの皆様と共に、新しいサービスの実現に取り組んでいきます。



サポーターフォーラムダイジェスト

重点プロジェクト「CASA」「WNI衛星」の “How Wonderful”と“How Much”について語る。

“How Wonderful (それが実現できたら、どんなに素晴らしいだろう)”で始めて、“How Much”を出口とする。それが、当社のビジネスの進め方です。株主サポーターに向けて、「CASA」と「WNI衛星」のプロジェクトリーダーが、それぞれの“How Wonderful”と“How Much”について語りました。



CASA

プロジェクト

CASAプロジェクトリーダー 草開 千仁 Chihito Kusabiraki



**WITHレーダーを利用し、ゲリラ雷雨、ゲリラ雪、
強風の脅威から交通の安全・安心を守る。**

“How Wonderful”について・・・

CASAプロジェクトでは、小型の気象レーダー（WITHレーダー）を利用したゲリラ雷雨やゲリラ雪などの局地的な気象現象をしっかりと捉えるためのインフラ整備に注力しています。WITHレーダーを使うことで、非常に細かい時間単位で気象の変化を捉えることができます。現在、国が整備しているレーダーは10分ごと、5分ごとの観測になっています。以前はそれで良かったのですが、近年のゲリラ雷雨は5分程で一気に雨を降らせ消えてしまう。気候変動に対応し、交通の安全を

サポートするには、従来からある気象インフラでは不十分なのです。このWITHレーダーは高い頻度で観測可能な航空機レーダーを応用しており、このテクノロジーは世界初のもです。

“How Much”について・・・

道路、鉄道、航空の安全確保に向けて、ゲリラ雷雨やゲリラ雪を捉えることが大きなテーマになっています。日本においては、これらの市場が最低でも約20億円あると見ています。この中の一部は、すでに当社がサービスを提供しています。海外についても、すでに韓国の航空会社から利用したい、という声をいただいております。アジアだけでも、少なくとも100億円のマーケットがあると見ています。

今後の展望・・・

現在、WITHレーダーは全国40台、移動観測車は3台ですが、さらにスピードを上げて展開します。私としては、5年以内にアジアを中心に500台体制にもっていきたい。一方、WITHレーダーの利用技術はまだ10%程度です。WITHは「一緒に」という意味ですから、企業・個人サポーターにも観測情報を共有して、どのように使えるかなど、一緒に考えていきたいと思っています。

地球の今を知り、
北極海航路の可能性を探る。

“How Wonderful”について・・・

「今、地球が全体的におかしくなっている。私たちは、もう少し地球の今を知りたい、知らなくてはならない」という観点を持っています。海運業界でも、これまでの安全性、経済性に加え、環境負荷を減らすことがテーマになっています。ひとつの可能性として、地球温暖化とともに北極海の氷が少なくなっていますから、そこを通れる時期がいつか来る。そこで、小型衛星をウェザーニューズ独自に打ち上げて海氷を測って、その可能性を追求しようというのが、WNI衛星プロジェクトのきっかけです。また、地球温暖化の今を知るために、衛星を利用したCO₂モニタリングにも取り組んでいきます。

“How Much”について・・・

当社は、これまでも海運業界をサポートしてきましたが、世界には約5万隻、アジア・台湾・日本とヨーロッパを結ぶ航路に、そのうちの約2万隻が航行しています。北極海航路が通れるようになり、そのうち1,000隻が北極海航路を使うと、サービスを10万円として毎月約1億円になる。お客様は



航路を大幅に短縮できますから、何百万円単位の燃料費と共にその分のCO₂削減ができます。

今後の展望・・・

すでにSHIRASEの中にグローバルアイスセンターを立ち上げ、海氷の予測に取り組み始めました。北極海航路が開通したときには、いつでもサービスを開始できる体制をとっています。また、WNI衛星を利用した海賊船対策についても、海運会社の皆さんと共に取り組んでいきます。

株主サポーターの声

時松 基さん

はっきりと夢を語る会社ですね、面白いです。

総会の開催が日曜日で、気軽に質問できる雰囲気もあるなど、株主に親切な会社だと感じました。反面、横文字や造語の多い説明が気になりました。CASAプロジェクトは、コスト面での工夫が民間企業らしいところで今後の業界の発展にも期待できそうです。



株主サポーターの声

麻多 槇子さん

SHIRASEが見たくて、株主総会に参加しました。

株主総会への参加は初めてでしたが、個人株主を大切にしている会社だという印象を受けました。社長の話し方が率直な点も好印象でした。SHIRASEの体験乗船のようなイベントがあったら、また株主総会に参加したいと思います。



第24期業績報告

連結貸借対照表 (単位：千円)

	第23期 (平成21年5月31日)	第24期 (平成22年5月31日)
【資産の部】		
流動資産	5,678,114	5,153,097
固定資産	2,635,395	3,745,496
有形固定資産	1,899,190	2,508,823
無形固定資産	327,887	340,986
投資その他の資産	408,317	895,685
資産合計	8,313,509	8,898,593
【負債の部】		
流動負債	2,274,738	2,836,650
固定負債	1,851,337	651,604
負債合計	4,126,076	3,488,254
【純資産の部】		
株主資本	4,190,411	5,474,584
資本金	1,706,500	1,706,500
資本剰余金	979,444	981,203
利益剰余金	2,043,088	3,298,122
自己株式	△538,621	△511,242
評価・換算差額等	△2,978	△64,244
純資産合計	4,187,433	5,410,339
負債純資産合計	8,313,509	8,898,593

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：千円)

	第23期 (平成20年6月1日から 平成21年5月31日まで)	第24期 (平成21年6月1日から 平成22年5月31日まで)
売上高	11,431,905	11,824,888
売上原価	5,923,562	5,922,161
売上総利益	5,508,342	5,902,727
販売費及び一般管理費	3,381,835	3,624,943
営業利益	2,126,507	2,277,784
営業外収益	15,153	19,982
営業外費用	102,639	40,323
経常利益	2,039,022	2,257,443
特別損失	2,191	65,621
税金等調整前当期純利益	2,036,830	2,191,821
法人税、住民税及び事業税	785,127	953,419
法人税等調整額	70,313	△183,525
当期純利益	1,181,389	1,421,927

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (単位：千円)

	第23期 (平成20年6月1日から 平成21年5月31日まで)	連結会計期間中の 変動額合計	第24期 (平成21年6月1日から 平成22年5月31日まで)
資本金	1,706,500	—	1,706,500
資本剰余金	979,444	1,759	981,203
利益剰余金	2,043,088	1,255,033	3,298,122
(剰余金の配当)		△166,893	
(当期純利益)		1,421,927	
自己株式	△538,621	27,379	△511,242
株主資本合計	4,190,411	1,284,172	5,474,584
評価・換算差額等	△2,978	△61,266	△64,244
純資産合計	4,187,433	1,222,906	5,410,339

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：千円)

	第23期 (平成20年6月1日から 平成21年5月31日まで)	第24期 (平成21年6月1日から 平成22年5月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,202,108	1,305,143
投資活動によるキャッシュ・フロー	△257,375	△1,305,823
財務活動によるキャッシュ・フロー	△880,167	△1,080,823
現金及び現金同等物に係る換算差額	△61,673	△7,735
現金及び現金同等物の増減額	2,890	△1,089,239
現金及び現金同等物の期首残高	3,454,208	3,457,099
連結範囲の変更による増減額	—	△3,586
現金及び現金同等物の期末残高	3,457,099	2,364,273

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 連結貸借対照表

総資産は、インフラ投資などにより、前期末に比べて585百万円増加し、8,898百万円となりました。

負債は、借入金の返済および社債の償還などにより、前期末に比べて637百万円減少し、3,488百万円となりました。

純資産は、配当を行う一方で、当期純利益の計上などにより、前期末に比べて1,222百万円増加し、5,410百万円となりました。

これにより、自己資本比率は60.8%となりました。

POINT 2 連結損益計算書

重点事業を中心にツールゲート型ビジネスが成長しましたが、海外売上における為替換算の影響により、売上高は11,824百万円となりました。

革新的なサービスを実現するためのインフラへ積極的に投資する一方、収益性の高いツールゲート型ビジネスが成長したことなどにより、営業利益は2,277百万円、経常利益は2,257百万円、当期純利益は1,421百万円となりました。

POINT 3 連結株主資本等変動計算書

剰余金の配当および当期純利益の計上により、株主資本合計は前期末に比べて1,284百万円増加し、5,474百万円となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動においては、法人税等の支払などがあるものの、1,305百万円の収入となりました。

投資活動においては、インフラ投資として有形固定資産の取得などにより、1,305百万円の支出となりました。

財務活動においては、借入金の返済や配当の支払などにより1,080百万円の支出となりました。

会社データ

会社概要

商号

株式会社 ウェザーニューズ

設立

1986年(昭和61年)6月

本社所在地

〒105-0014

東京都港区芝3-1-14

日本生命赤羽橋ビル

グローバルセンター所在地

〒261-0023

千葉県千葉市美浜区中瀬1-3

幕張テクノガーデン

電話番号

043(274)5536(IR代表)

資本金

17億6百万円

社員数

599名

[このうち海外グループ112名]

役員

代表取締役社長	草開 千仁
代表取締役副社長	宮部 二郎
取締役副社長	湯川 智夫
取締役副社長	戸村 孝
取締役	松尾 修吾
取締役	磯野 可一
取締役	志賀 康史
取締役	コン・キャリー
取締役	アントニオ・ブリッツォ
取締役	森田 清輝
取締役	石橋 知博
常勤監査役	松本 良彦
監査役	大徳 宏教
監査役	立野 嘉之

株式の状況

株式の状況(2010年5月31日現在)

会社が発行する株式の総数: 47,000,000株

発行済株式総数: 11,844,000株

株主数: 7,417名

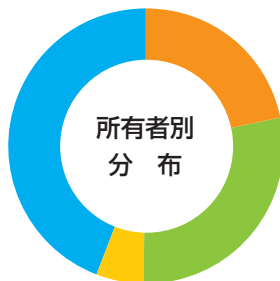
大株主一覧

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	議決権比率(%)
一般財団法人WNI気象文化創造センター	1,700	15.25
株式会社タプリーユ・エヌ・アイ・インスティテュート	1,500	13.46
石橋博良	948	8.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	360	3.23
株式会社千葉銀行	360	3.23
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	346	3.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	322	2.89
ウェザーニューズ従業員持株会	297	2.66
石橋忍子	230	2.06
日本生命保険相互会社	200	1.79
株式会社三井住友銀行	180	1.61

(注)

1. 当社は自己株式を693,100株保有し、その発行済株式総数に対する割合は5.85%であります。
2. 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)および日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式であります。

株主の分布状況



- 金融機関・証券会社
21.75%
- その他の法人
28.78%
- 外国法人等(個人含む)
5.58%
- 個人・その他
43.89%

株式メモ

決算期

5月31日

剰余金の配当の基準日

期末配当 5月31日 中間配当 11月30日

定時株主総会

毎年8月

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先・電話照会先)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

各種お問い合わせ ☎ 0120-232-711 (通話料無料)

各種手續用紙のご請求 ☎ 0120-244-479 (通話料無料)

同取次所

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

上場証券取引所

東京証券取引所